

## 見沼中学校区義務教育学校に関する説明会 会議録（荒木小・保護者②）

- 1 開催日時 令和2年10月24日（土）午後3時30分～午後5時00分
- 2 開催場所 荒木小体育館
- 3 出席者 保護者21名、一般3名
- 4 教育委員会 鈴木教育長  
                   学校教育部 吉田部長、荻原参事、諸貫次長  
                   学校教育課 須永主幹  
                   教育総務課 上野主幹、久積主査、柏瀬、田沼

### 5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
鈴木教育長	2 あいさつ
諸貫次長	3 経過報告について説明
鈴木教育長	4 義務教育学校の設立について説明
出席者	5 質疑 義務教育学校を作っても中学校の人数は変わらないし、部活も変わらないと思う。9年制の学校が10年後になくなり、南河原や北小と一緒にになる計画があるので、小中一貫教育についてはそれからでも遅くないのではないかと。実際、東部・西部・南部では2030年以降に小中一貫教育が始まる。ここだけ2022年に急いでやる必要があるのか。実際、いくら使うのか、金額も提示されていない。北河原での議事録を見ると遠いという意見があるが、様々な問題点が解決していない。小中一貫教育にしないといけない理由は、義務教育学校の何が良いのか全然伝わってこない。
吉田部長	一番は複式学級の解消という目的がある。その中で、先を見据えた学校再編成の中で義務教育学校という計画ができた。資料1のとおり、平成30年に通学区域審議会へ学区について諮問し、東西南北の4つの区域で今後どうしていくかの答申をもらい、北部地域については、義務教育学校が望ましいという結果になった。北部には学校がなくなる懸念があるので、まずは義務教育学校を設立し、北部に学校を残していこうという計画になっている。中学校の部活などすぐに解消される事はないが、魅力ある学校を作って他の地域から生徒を受け入れる事で、ある程

<p>諸貫次長</p>	<p>度の規模を維持していきたい。</p> <p>なぜ今やるのかについては、小5、6で英語が教科になった。今までの小学校の先生は英語をやっていなかったので、中学校の専門的な英語の先生が見る必要がある。あるいは教科担任制を国の方でも今後進めていく動きがある。小5、6の教え方自体に問題が生じてきている。それも小中一貫教育の一つだと思う。中学校の先生が専門的な事を小学生に教える乗り入れ授業が今後求められていく。その際に現状の見沼中の先生では、校舎が別にある状況だと人員的に難しいのではないかと思う。</p>
<p>出席者</p>	<p>他の地域はなぜ遅いのか。義務教育学校もここだけ。他の地区は10年後も義務教育学校になるかもわからない。10年後には見沼中を含めた北部の学校も義務教育学校になってしまう。その理由もわからない。10年で終わってしまう学校に他から人が来るとは思わない。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>市の全体の再編成計画の基準として1学年2クラスがある。将来は中学校4校、小学校7校にする方針となっている。数だけで言うと北部地域には学校が存続しないという予測が強い。東・西・南では400～500人の人数が確保できる。しかし、北部では計画策定時も今も、急激に人数が減っている。学校は地域と共に作っていくものなので、北部にも学校を残したいという思いで、人数が少なくても今後も学校として存続できる方法はないかという視点から考えた。過小規模で社会性や主体性が育めない課題もあり、1クラスの人気は確保し、少ない人数の中で社会性を育てていくために、小学校だけ・中学校だけでは存続ができない状況の中で、これから進めていく小中一貫教育の成果が一番得られるように北部地区に義務教育学校を考えた。一番のネックは10年後にあると思う。委員会としては10年で存続しないとはしたくない。けれども、人数の変化や環境的なものを考えると、10年の区切りでさらに北部全体として子供の人数を確保し、より豊かで質の高い教育を実践するため計画は作られている。今現在なくなるかと言われたら、なくなりまらずとも断言はできない。今後5年、10年それぞれの所で見直しを図っていく。他の地域から来るとは思えないという意見があったが、他の地域から来るような教育を作りたいと思っている。ある意味、行田の教育の先進的な取り組みになるから、先生の配置を考えていくし、環境も考えていく。特認校制度で他の地域から来てもらいながら、今後の北部地域の学校の在り方について検討を重ねていきたいと思っている。行田市の教育にとって方向性を決める大事な場面だと思っている。不安や疑問はたくさんあると思うが、できるためにはどうしたら良いかを皆さんの</p>

	<p>力を借りながら進めていければと思う。来るかどうかわからないという不安を払しょくするような形で、アピールをしたり、カリキュラムを考えて、より質の高い魅力のある学校にしたいと思っている。委員会としては北部に学校を残す事で、今後も地域の拠り所になったり、北部の誇りをもった子供達を育てていきたいと思っている。</p>
出席者	<p>良い学校を作りたいというなら、なぜ増築から改修に変わったのか。10年後になくなるからだと思ってしまう。</p>
鈴木教育長	<p>確かに環境・施設面だけを見るとそうだと思う。建設の計画を立てた当時は12クラスの見通しで増築が必要であると進めてきたが、急激な子供達の減少により、10クラスになる事が目に見えてきた。既存の校舎を最大限改修しながら、子供達にとって教育が豊かにできるような改修をしたい。</p>
出席者	<p>クラス数は最低限という認識で良いか。万一、他からたくさん来たら入りきれないのではないか。</p>
諸貫次長	<p>他の地区からの受け入れは、あくまでクラス数を増やさない中でクラスの人数を維持する計画となっている。</p>
出席者	<p>1クラスは何人までと考えているのか。</p>
諸貫次長	<p>40人。</p>
出席者	<p>現在は何人か。</p>
諸貫次長	<p>開校時点で一番少ないクラスで20人。</p>
出席者	<p>クラスを増やす考えはないのか。</p>
諸貫次長	<p>クラスを増やすと現在の校舎の中では教室が足らなくなる。</p>
出席者	<p>2クラス以上という義務教育学校の基準を満たしていなくてもやる理由は。5年生以外1クラスになっているが、仮に人が増えてきて1年生が2クラスになった場合どうするのか。5年の1クラスを使うだと思いが。9年間ずっと1クラスの場合、人がずっと同じになってしまう事についてはどう考えているのか。</p>

<p>荻原参事</p>	<p>1クラスだと人間関係の固定化は懸念されると思う。一度固定化されると中々解消されない部分もあるが、今の小学校では単級の所も多く、子供の人間関係がうまく構築できるようにグループを変えながら、様々な交流を通して人間関係が固まらないように指導している。</p>
<p>出席者</p>	<p>義務教育学校の制度はいつからか。Q16では県内に1校しかない、全国でも126校しかない。私見では普及していない制度だと思うが、なぜ小さな数字なのか。普及していない制度にも関わらず、素晴らしい教育制度であるから取り組んでいくという事か。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>義務教育学校の制度ができたのは平成28年度から。それまでに小中一貫型の学校もあった。義務教育学校は校長が一人である事が最大の特徴で、9年間を掌握してぶれずに教育をやっていく。学力や不登校やいじめなどの問題を一つの組織として課題解決し、力も付けていく。この126校には今まであった小中一貫型の学校が義務教育学校に変更したものもある。また、義務教育学校にするには学校の運営の内容や人数や校舎の関係などの色々な環境の整備が必要となるため、どんどん出来るわけではなく、条件が整った場合だけ出来るものである。特に教員というのは市費で雇っているわけではなく、国や県の基準で配置される事もあり、いくつでも出来るという訳ではない。制限のある中で県内では春日部市が先進的に義務教育学校をやっている。今後も県内で動きがある。国の流れとして小中一貫教育はどこも取り組んでいくものだが、5～6年前から市内の小中学校で研究をしてきた。見沼中学校区でも2年間行った。その中では学力面や不登校などの不適應がなくなるなどといった成果があった。他の学校でも同じような成果があった。義務教育学校を選んだ理由は小中一貫教育の研究発表会に来た文科省の視学官の方から、学期に1回程度しか交流しない小中一貫教育の学校と一つの施設の中で一つの教員集団として教育を行っている義務教育学校を比較したデータを示してもらった。早期の段階から専門的な指導をしていく事、1～9年までの目指す子供像が一つである事、1～9年までの継続したカリキュラムがある事、目標がある事、教科担任制が実施されている事、学校運営協議会がしっかりとある事、そういった条件をクリアした義務教育学校は基礎のA問題、応用のB問題のどちらも4ポイントから5ポイント上回っている結果が出ていた。点数だけでなく、意識調査の中で学習意欲の向上も見られる。特に注目したのは、学習面でも生活面でも中学校への不安が少なくなっている事。北部に学校を残すために他から来たいと思える魅力ある学校を作るのであれば、義務教育学校</p>

	<p>という新しい形で成果を上げていきたい。</p>
出席者	<p>せっかく魅力的な部分があるのであれば、地区の人たちへ魅力的な部分を資料などで具体的に示していくべきだと思う。かつ、デメリットも示すべきだと思う。その解決方法をいくつか考えているのであれば、地域の人々の不安を解消するような資料があると良いと思った。</p>
鈴木教育長	<p>是非進めていきたい。努力していく。</p>
出席者	<p>今までの学校と義務教育学校では、先生の配置で違う部分はあるのか。</p>
荻原参事	<p>義務教育学校になると校長が1人になる。教頭は春日部の例だと2人。養護教諭も小学校の低学年は体調崩しやすいという事もあり、2人。それ以外は学級数に応じた教員数になる。義務教育学校開校から何年かは、新しい学校が軌道に乗るように加配という形でさらに教員が配置される。</p>
出席者	<p>それは義務教育学校になるから県が配置を特別にしてくれるのか。</p>
荻原参事	<p>統合加配という事で、義務教育学校だからではない。2校廃校にして1校に吸収される場合に加配はないが、3校廃校して1校新しい学校が開校にする場合は対象となる。</p>
出席者	<p>以前、荒木地区の説明会があった。7月以降に何回か出席した。反対意見が8割ほど出たのはなぜか。なぜ9年生なのかという意見がある。荒木地区の議員がグラフを作っていた。それをみると最初の方は良いが、加工している。将来、息子や娘が社会人になって会社に見学に行った時に「どこの学校か」と聞かれ、「小中一貫校です。9年生です」と答えると、「9年生って知らない」と言われるかもしれない。私も9年生って何だろうと思っていた。小中一貫校のプールで、例えば中3や中2の男子が小1、2の子に興味津々でのぞき見をしたとする。そうなれば先生や教育委員会は黙視するのではないか。教育長はどうするのか。</p>
鈴木教育長	<p>心配な気持ちは伝わってきた。大きい子が小さい子に興味を持って見るという現場にあったらどうするのかについては、きめ細やかな教育の中で、教員が一つのチームとして同じ目線できちんと取り上げて、まずはそうならないような指導をする。のぞき見をする、性的いたずらをす</p>

	<p>る事のない、障害のある児童生徒を差別やいじめたりする事のないような人間関係ができるように多彩な活動や指導を行っていく。仮にそれを目撃した場合は重大な事案であるので、全職員で話し合い、問題を共有し、それぞれの発達段階に応じたケアや指導を学校全体として取り組んでいく。9年生と呼ばれる事や「知らない」とか「そんな学年あったの」という目で見られないように、まずは市内の小・中学校の指導の徹底はしていく。9年生と言われてショックを受ける、恥ずかしいと思うのは9年間やってきた誇りが育てられてなかった指導の足りないところだと思う。高校や社会に出られるように見沼グローバル科の中でも力を付けていきたいと考えている。教育委員会だけの問題でなく、学校と一緒にやっていかなければならないと思う。保護者や地域も学校を見てもらい、意見をもらったり、協力できる部分は尽力してもらい、子供達にとって居場所があり、楽しく、差別されない、いじめられないような学校を作っていきたい。</p>
出席者	議決は12月と聞いたが本当か。
鈴木教育長	12月議会で条例改正をして、学校名を決めていく。
出席者	それ以降はないのか。
鈴木教育長	予算関係もある。
出席者	議決は12月だと思うが。
鈴木教育長	名前についての議案は12月に出す。そこで議決されなければそこで止まる事になる。
出席者	1か月しかないが、その1か月で終わってしまうのか。
鈴木教育長	名前についての議決はそこで終わるが、議決がされなければそこで止まる。その後再編成計画を見直す作業に入って、新たな提案という形になる。
出席者	教育委員会でスムーズに進められても困るのだが。全体の中で進めていった方がいいのではないか。
鈴木教育長	義務教育学校に対して、よくわからないという事で説明をする事にな

	<p>った。義務教育学校をこのまま進めていいのかについて、保護者に意向を聞いた上で進めていく。3地区同じような形で説明と質疑に答えながら保護者に問う事になる。</p>
出席者	<p>同じようにしてもらいたい。</p>
出席者	<p>12月議会は反対があっても議決を通すのか。反対が多ければ議決を通さなくなるのか。</p>
鈴木教育長	<p>議決までに保護者の意向を確認し、結果を検討していく。議決に出さない、計画を止めるという事もあり得る。</p>
出席者	<p>義務教育学校はやめるという判断でよいか。</p>
鈴木教育長	<p>その部分は審議会等で協議しないとイケない。12月議会に出さないという事は、そこで止まるという事になる。</p>
出席者	<p>義務教育学校になる・ならないが決まるのはいつ頃か。</p>
鈴木教育長	<p>保護者の意向を十分に確認した上でとなる。</p>
出席者	<p>今回の件で反対が多ければやめると思うが、それでも協議を続けるつもりなのか。</p>
鈴木教育長	<p>このような形での説明会は中々持てないかもしれないが、協議会で出た内容や先ほどの意見でも資料を配った方が良いという話もあった。手を尽くして、来週の説明会にも望んでいきたいと思っている。</p>
出席者	<p>令和4年4月開校するにはいつまでに決めないとイケないか。</p>
鈴木教育長	<p>複式学級の解消は必ず実施したいが、義務教育学校として開校するかについては、この後、協議していきたい。</p>
吉田部長	<p>保護者の意向を確認し、その結果を踏まえて検討する。いきなり中止しますとはいかないので、まずは計画を一度立ち止まるという事も選択肢としてある。そうすると、12月議会には出さない事になる。その後、意見を踏まえて協議し、新たな考えもあると思うし、もっと説明を深めてもう一度計画を進めるという事もあると思う。12月に議案が提出で</p>

	<p>きなければ、令和4年4月の義務教育学校は難しいと思う。先に延びる事になると思う。</p>
出席者	<p>止まった場合には、どのように意見を求めるのか。</p>
吉田部長	<p>地域や保護者、議員には経緯を知らせる。その後どうするかについては、通学区域審議会に計画を諮問して、答申を受けて、教育委員会で判断していきたい。</p>
出席者	<p>今回の賛否の取り方は。</p>
吉田部長	<p>今回の計画は義務教育学校を進めるというものなので、保護者に聞くのは義務教育学校に賛成か反対かを聞く。その結果を踏まえて考えていきたい。週明けに学校を通じてアンケート用紙を配布するので、回答してもらいたい。</p>
出席者	<p>署名についてはどう思うか。</p>
吉田部長	<p>8割が反対している結果については重く受け止めている。説明会を行って、保護者の意向を確認したい。</p>
出席者	<p>荒木の保護者や地域が8割反対という署名結果は意味をなさない事なのか。受け止めていないという事なのか。</p>
吉田部長	<p>重く受け止めている。そのため、説明会を開催する事になった。その後、改めて保護者に意向を確認して、最終的に判断したい。</p>
出席者	<p>署名結果は受け止めていないという事なのか。反対が8割という結果が出ているのに、改めて聞くというのはどういう事なのか。</p>
吉田部長	<p>義務教育学校に反対、荒木小を活用する事に賛成、3校の再編成に賛成という3つの柱で署名してもらっている。教育委員会として提案しているのは、義務教育学校を進めるという事だけで、署名の内容からはその部分だけ見て取れないため、義務教育学校に絞って意向を確認したい。</p>
出席者	<p>義務教育学校に反対した場合に、複式学級の解消は行わないとは言わないか。</p>



吉田部長	<p>言わない。複式学級の解消は令和4年4月を目指して進めていきたい。</p>
出席者	<p>義務教育学校をやらなくても複式学級の解消はできるから、北河原小と須加小を安心させてもらいたい。複式学級の解消と義務教育学校は全く別の話だから、交換条件にするようなアンケートはしないように約束してもらいたい。</p>
司会	<p>6 閉会</p>